

「幼児教育コーディネータ養成講座」カリキュラムの開発と実践

齋藤陽子*¹, 久世均*², 松川禮子*³, 横山隆光*⁴, 吉村希至*⁵

眞喜志悦子*⁶, 中島法晃*⁷, 佐々木恵理*⁸, 大井修三*⁹

*岐阜女子大学文化創造学部

(2022年11月18日受理)

Development and Implementation of the "Early Childhood Education Coordinator Training Course" Curriculum

*Faculty of Cultural Development, Gifu Women's University

SAITO Yoko *¹, KUZE Hitoshi*², MATSUKAWA Reiko*³,

YOKOYAMA TAKAMITSU*⁴, YOSHIMURA Mareshi*⁵, MAKISHI Etsuko*⁶

NAKASHIMA Houkou*⁷, SASAKI Eri*⁸, OOI Syuzo*⁹

(Received November 18, 2022)

教員自身が時代や社会、環境の変化を的確につかみ取り、その時々状況に応じた適切な教育・保育の提供を行うためには、個々の教員が自ら課題を持って、主体的に研修に参加する研修体制の確立が必要である。本研究では、幼稚園教諭の資質向上を目指すキャリアステージにおける講座の在り方を研究し、幼児教育の新たなキャリアである「幼児教育コーディネータの養成」について報告する
<キーワード> 幼児教育コーディネータ, キャリアステージ,
幼稚園教諭の資質向上

I. はじめに

14年6月24日に報告された「幼稚園教員の資質向上について—自ら学ぶ幼稚園教員のために—」(報告)によると、次のように述べられている。

幼児期は、人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期であり、他者の存在を意識し始め、人とのつながりや周りへの興味や関心が広がる時期である。幼児は、初めての集団生活である幼稚園において、主体的な活動としての遊びを通じ、他者との違いに気付き、ともに活動する喜びを得、自らの好奇心を高めるなど、生きる力の基礎を得ることができるようになるので、遊びを通じた総合的な指導を行うことが重要である。

幼稚園教員は、幼児を内面から理解した上で、幼児の主体的な活動が確保されるように物的・空間的環境を構成するとともに、また、幼児の活動を豊かにするための役割が期待されており、幼児教育における中核的な役割を担っている。このため、幼稚園教員に優れた人材を得、また、その資質向上を図ることは極めて重要である。この調査研究においては、幼稚園教員の資質を、幼児教育に対する情熱と使命感に立脚した、知識や技術、能力の総体ととらえて、その向上のための課題と展望、今後の方向性及び方策を検討している。

教員として求められる資質は多岐にわたり、ライフステージに応じて、不断に向上に努める必要がある。また、現職教員に対す

る研修だけでなく、人事や処遇等も含めて総合的に条件を整備していくことが、教員の総合的な資質の向上に必要である。

また、幼稚園が、自己点検・自己評価を行うことに努め、それらの結果や園の運営状況などに関する情報を園として積極的に公表していくことが求められているが、幼稚園教員の資質向上に関する項目についても、その対象とすることは、保護者や地域の多様なニーズに応え、幼稚園教育の水準を維持向上していくことに資する。

これらの観点を踏まえて、幼稚園教員自らが資質向上に対して取り組むことが重要であり、また、多くの関係者や関係団体がその取組を支援していくこと及びそのための環境の整備を国や地方公共団体が行うことが重要である。

そこで、本学において幼稚園教諭の資質向上を目指すキャリアステージにおける講座の在り方の研究として、幼児教育の新たなキャリアである幼児教育コーディネータの養成を始めたので報告する。

II. 幼稚園教員に求められる専門性

幼稚園教員は、幼児一人一人の内面を理解し、信頼関係を築きつつ、集団生活の中で発達に必要な経験を幼児自らが獲得していくことができるように環境を構成し、活動の場面に応じた適切な指導を行う力をもつことが重要である。

また、家庭との連携を十分に図り、家庭と地域社会との連続性を保ちつつ教育を展開する力なども求められている。その際、幼稚園教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うことに留意する必要がある。言うまでもなく、これらの教育活動に携わるにあたっては、豊かな人間性を基礎

に、使命感や情熱が求められる。

III. 教員のキャリアステージにおける資質の向上に関する指標

2017年4月施行の教育公務員特例法（教特法）に基づき、各任命権者には教員育成指標とそれに基づく研修計画の策定が義務付けられた（第22条の3、第22条の4）。法令・通知等から描出される理念型の教員育成指標は、教員キャリアの多様性を前提としつつ、教員キャリアにおいて身につけるべき資質・能力を明確化することで、全教員のキャリアに応じた基礎的資質・能力の確保（標準化）と、各教員の多様な資質・能力の伸長（卓越化）とを図るものである。また、その際には「教員の職責、経験及び適性」に対応した指標とすることが義務付けられている（第22条の3）。

併せて国が策定した「公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針」（以下、指針）では、教員育成指標に盛り込むべき要素として①学校種及び教員の職種、②職責、経験及び適性に応じた成長段階（以下、キャリアステージ）、③資質・能力の内容（7項目）が明示されている。

「キャリアステージにおける目標を設定する際に」「資質向上のための研修を選ぶ際に」「今後目指すべき資質を明らかにする際に」少しでも役立てることを意図して策定された。

したがって、大学における幼稚園教諭の講習についてもこれらの指標（資質・能力）を踏まえたカリキュラムを作成することが重要である。

IV. 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方

平成22年11月11日幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研

究協力者会議にて、「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」が提出された。

ここでは、子どもの発達や学びの連続性を保障するため、幼児期の教育と児童期の教育が円滑に接続し、体系的な教育が組織的に行われることが重要であるとの認識されている。その一方、地方公共団体や各学校・施設（幼稚園・保育所・認定こども園と小学校）の幼小接続のための取組は十分実施されているとはいえない状況であるとの課題も提言されている。その理由としては、「接続関係を具体的にすることが難しい」、「幼小の教育の違いについて十分理解・意識していない」、「接続した教育課程の編成に積極的ではない」があげられている。

このように、幼小連携の接続期の学びを進めていくためには、「幼稚園と小学校の教育課程の接続関係がわからない」、や「幼稚園教育と小学校教育の違いが十分理解されていない」という課題も明らかになっている。

V. 幼児教育コーディネータの必要性

これらの幼児教育の社会的な課題を解決するためのキーパーソンとして、それぞれの園や教育委員会などに「幼児教育コーディネータ」を配置し、これらの社会的課題の解決し、幼児期から児童期の発達を見通しつつ、5歳児のカリキュラムとスタートカリキュラムを一体的に捉え、地域の幼児教育と小学校教育（低学年）の関係者が連携して、カリキュラム・教育方法の充実・改善にあたることを推進する体制を構築することが重要になる。

また、接続期に保育者が行っている環境の構成や子供への関わり方に関する工夫を見える化し、家庭や地域にも普及し、幼児期・接続期の教育の質保障のための枠組みを構築し、データに基づくカリキュラム・教育方法の改善を促進する必要がある。そこで、本学にお

いて幼稚園教諭の資質向上を目指すキャリアステージにおける講座の在り方を研究し、幼児教育の新たなキャリアである幼児教育コーディネータの養成カリキュラムを開発した。

VI. 幼児教育コーディネータ養成講座カリキュラム

幼児教育コーディネータ養成の目的は、「地域・学校園における幼児教育の研修及び専門的指導」のための研修講座の計画立案実践能力、組織化、および地域課題解決への具体的対応力を身につけることにより、地域、学校園における保幼小連携などの幼児教育をコーディネートできる人材の育成や、その能力の向上を図ることである。つまり、幼児教育にまつわる社会的な課題である幼児教育の人材の質の向上は、特にミドルリーダーを対象に幼稚園教諭2種免許を1種免許に上進すると共に、国内外における幼児教育の重要性についての認識を高め、幼児教育の量の拡充だけでなく、質の向上を求める声を高め、新たな学びを創造する資質が幼稚園教員にも求められていることの再認識をすることが必要である。

本幼児教育コーディネータの目的を達成するために設定したカリキュラムは表1の通りである。同時に、このカリキュラムは幼稚園教諭2種免許状所持者で、基礎資格となる免許状を取得した後、幼稚園（特別支援学校の幼稚部及び幼保連携型認定こども園を含む）における教員として在職年数が、12年以上の方の2種免許状を1種免許状に上進するために必要な科目ともなっている。

この7科目 77時間に岐阜県「教員のキャリアステージ」における資質の向上に関する指標 改訂版【幼稚園等】における【資質充実期】並びに【資質貢献期】（令和3年10月）並びに本学独自に設定した資質・能力を加えた幼児教育コーディネータに必要な資質・能

力を次の図1のように構造化を行った。

表1. 幼児教育コーディネータ養成カリキュラム

科目区分	科目名	授業形態	時間数
領域及び保育内容の指導法に関する科目	遊びと文化Ⅰ	講義	8
	遊びと文化Ⅱ	講義	8
保育内容(表現)	保育内容(表現)	講義・演習	15
	教育の基礎的理解に関する科目	教師論	講義
道徳, 総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導, 教育相談等に関する科目	教育の方法・技術	講義・演習	15
	幼児理解教育相談Ⅰ	講義 講義	8 8

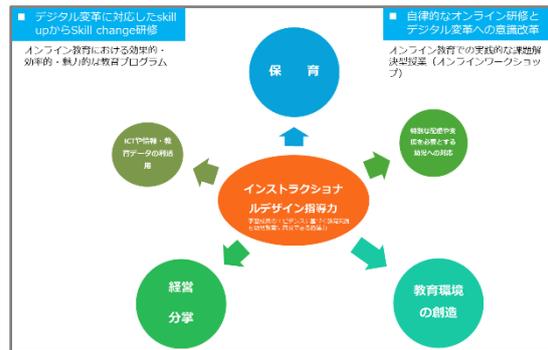


図1. 幼児教育コーディネータに必要な資質・能力の構造化

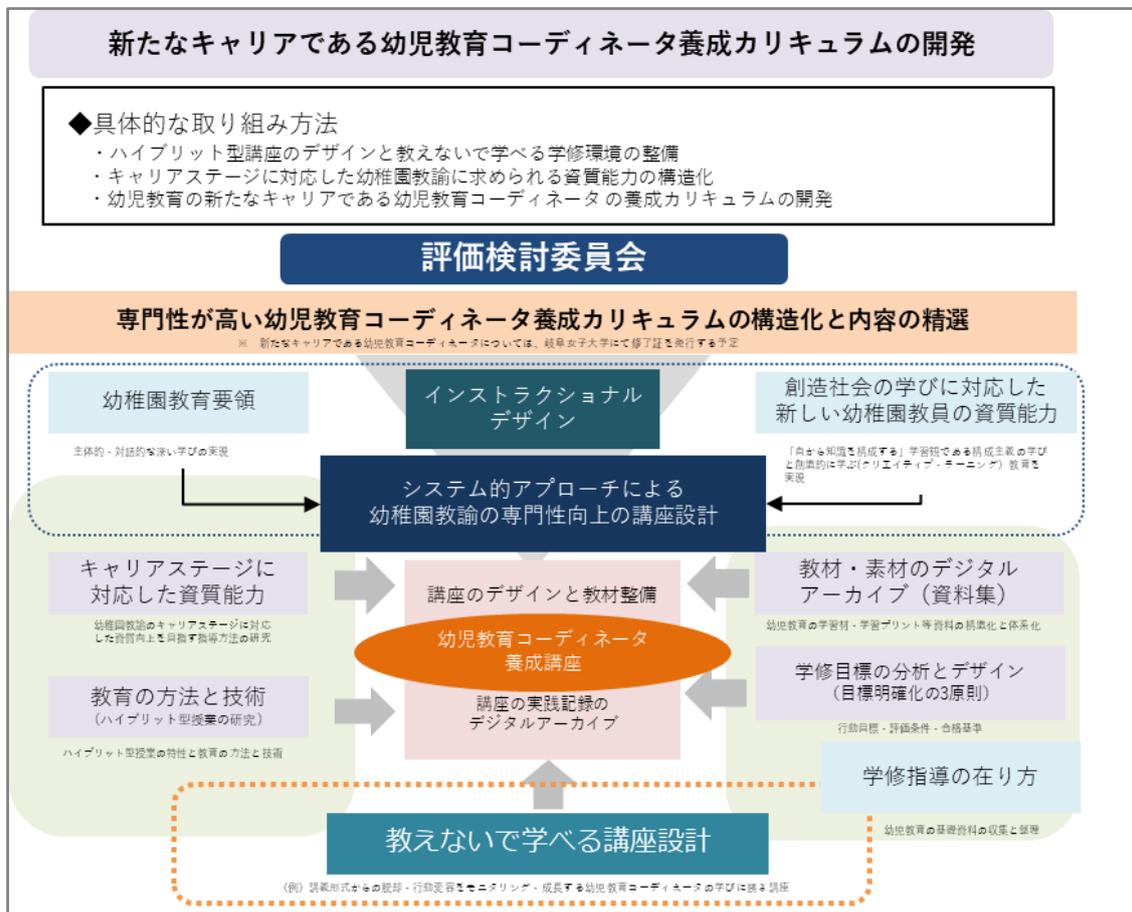


図2. 幼児教育コーディネータ養成講座概要

なお、本幼児教育コーディネータ養成講座は、文部科学省より委託を受けた事業として展開をしてきた。令和3年度には、「幼児教育コーディネータ養成講座」の企画を策定し、令和4年度に、講座の実施をしている。令和3年度は「令和3年度幼稚園教諭の人材確保・キャリアアップ支援事業（幼稚園教諭免許法認定講習等の在り方に関する調査研究）」として、令和4年度は「令和4年度幼児教育における人材確保・キャリアアップ支援事業（幼稚園教諭免許法認定講習等の在り方に関する調査研究）」として委託を受けている。

その事業の概要は図2のとおりである。

本事業の主眼は、「免許法認定講習等の開発・実施」と「新たな教師の学び（オンライン等）の開発」である。そのために、

- ①自律的なオンライン講座のデザインと教えないで学べる学修環境の設計
- ②キャリアステージに対応した幼稚園教諭に求められる資質能力の構造化
- ③幼児教育の新たなキャリアである幼児教育コーディネータの養成カリキュラム構造化と内容の精選
- ④「幼児教育コーディネータ養成講座」の実施（幼稚園教諭2種免許状から1種免許状に上進する認定講座の開設）を行うこととしている。

VII. 幼児教育コーディネータ養成講座の実施

このような事業の中で、令和4年度には「幼児教育コーディネータ養成講座」を次の表2のように実施した。大まかな講座の流れは、①受講申込②スタートアップオンライン講座受講（1日、zoomにて）③学習開始（講習受講期間にて学習実施）④修了認定試験受講⑤履修証明プログラム申請⑥履修証明書発送となっている。

表2. 幼児教育コーディネータ養成講座実施概要

	第1期	第2期
申込期間(必着)	5月23日～ 6月10日	7月11日～ 7月29日
受講料振込期間	受講確認票到着後～6月24日	受講確認票到着後～8月10日
受講許可書・教材・履修証明プログラム申請用紙発送	振込確認後 ～7月8日	振込確認後 ～9月2日
スタートアップオンライン講座	7月16日 又は 7月17日	9月10日 又は 9月11日
講習受講期間	7月17日 ～10月17日	9月11日 ～12月11日
修了認定試験	10月17日 ～10月30日	12月11日 ～12月24日
履修証明プログラム申請用紙提出〆切	10月30日迄に事務局へ必着 (印刷物を郵送にて提出)	12月24日迄に事務局へ必着 (印刷物を郵送にて提出)
修了認定	採点終了後 判定会議	採点終了後 判定会議
履修証明書発送	12月中旬頃発送 予定	2月初旬頃発送 予定

本幼児教育コーディネータ養成講座の実施は、「ハイブリット型講座」として実施している。つまり、「対面とe-Learning」を活用した学びとを組み合わせた学び方である。令和4年度実施の実際の様子は図3～5のとおりである。図3は、対面の様子（対面は全国から受講可能とするために、zoomでの実施とし、受講生は、任意の場所から学ぶことを可能とした。）、図4は、e-Learningでの学びの際に活用するためのテキスト、図5は、同じくe-Learningでの学びの際に必要な動画教材の画面である。

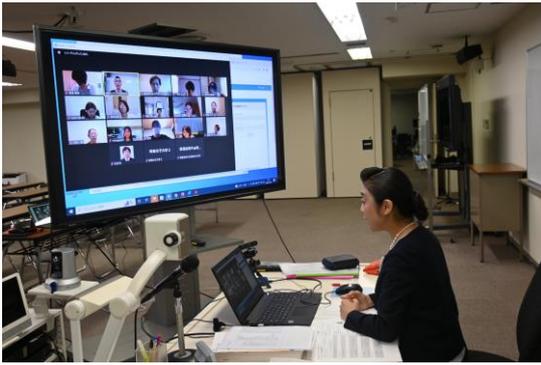


図3. 幼児教育コーディネータ養成講座対面の様子

の実施について報告した。講座の実施については、令和4年度における実施中の状況の報告となっている。今後は、実施したことから、幼児教育コーディネータ養成講座の評価・改善、特に、幼児教育コーディネータの資質・能力の構造化の評価・改善を図っていく必要があると考えている。



図4. 幼児教育コーディネータ養成講座テキスト

謝辞

本事業実施において、岐阜女子大学の教職員の皆様よりご指導・ご尽力をたまわっています。ここに感謝の意を表します。

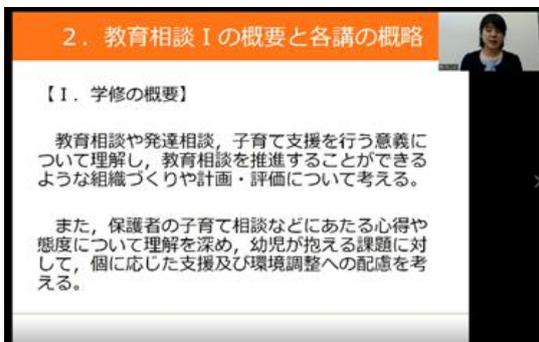


図5. 幼児教育コーディネータ養成講座動画教材

このような講座実施状況であり、実施初年度の令和4年度は、第1・2期合わせて34名が北は青森県から南は沖縄県から受講した。

なお、本幼児教育コーディネータ養成講座は、岐阜女子大学での「履修証明プログラム」として実施している。

VIII. おわりに

本稿において幼児教育コーディネータ養成講座のカリキュラム開発とそれを基にした講座